

第9回レスキューロボットコンテスト 競技のポイント



レスキューロボット実行委員会

第9回レスキューロボットコンテスト
実行委員会

レスキューロボットコンテストの フィロソフィーとストーリー

- 初参加の皆様
- 常連の皆様

最初にご確認ください。

「レスキューロボットコンテストと
他のロボットコンテストとの違い」

レスキューロボットコンテストの フィロソフィーとストーリー

- フィロソフィー(考え方)
- レスキューロボットコンテストには、レスキューに関する社会的理解を深めていただく一手段としての意味を付しています。そのため、このコンテストには次の原則があります。
- **原則**:レスコンの背後には、常に現実のレスキュー活動が控えています。

レスキューロボットコンテストの フィロソフィーとストーリー

- 1) 他チームとの相対的な勝敗は第一ではありません。
- あくまでもあらゆる状況下において自己ベストを探求する競技だといえます。レスコンでは、災害救助活動に対する社会的理解の探究、技術的な成果の社会への還元、創造性を育む場や機会の提供、新しい研究テーマや製品アイデアの発掘、などが重要であると考えています。競技形式をとるのは、そのことによってお互いの技術やアイデアを切磋琢磨するためです。

レスキューロボットコンテストの フィロソフィーとストーリー

- 2) 緻密なルールや制限はあえて設けない方針です。
- なぜなら、現実のレスキュー現場は千差万別で、基本的にはその場での合理的・人道的判断によって行動しなくてはならないからです。あらかじめ定められた現場であらかじめ定められたルールの下での行動にはならないからです。

レスキューロボットコンテストの フィロソフィーとストーリー

- 3)2)の結果、競技上迷いが生じることがあります。

たとえば、ルール上は禁止されてはいないがこういう行動はとってもいいのだろうか、という類の迷いが生じるかもしれません。そのときには「**現実のレスキューではどうなのだろうか**」と考えることで判断していただければと思います。

第9回レスキューロボットコンテストにおける 大きな変更ポイント

1. 予選 → 中間審査
2. 現場到着廃止(ダミヤン識別の追加)
3. コントロールルーム間通信の追加
4. ロボットのサイズ制限追加

中間審査

- 予選から中間審査に変更
- レスキュー活動およびレスキューロボットのコンセプト・アイデアの総合評価およびロボット製作の計画性評価を行うための**プレゼンテーション**
- 採点結果はレスキュー工学大賞などの選定審査
- 結果次第では出場の棄権勧告もある

中間審査

- 中間審査にロボットの実機の持ち込みは**不可**
 - 発表時間;発表7分、質疑応答3分
 - 応募書類に基づき全てのロボットを完成させ、
ビデオ画像を示さなければならない
- プレゼンテーションでは以下の3つのビデオ画像が必要
 - 1. 応募書類に記載した重要な機能が実現されていることを証明する動画
 - 2. ロボットが走行している(Uターンなどをしているところ)動画
 - 3. ダミヤンに類似したものを救出している動画

中間審査・テストラン

- 中間審査会場にてテストランも可
- 希望するチームは、ロボットの調整をかねてテストランが可能

競技場の一部分、瓦礫を用意する予定

現場到着ミッションポイント廃止

第8回までのレスキュー活動の流れ

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 出動 | ミッションポイント |
| 2. 現場到着 | 10点 |
| 3. 救出完了 | 25点 |
| 4. 搬送完了 | 15点 |

「ダミヤンズを識別せよ」

レスキュー活動の流れ

1. 出動 ミッションポイント

2. 救出 25点

3. 搬送完了 15点

＋ **ダミヤンの個体識別が追加**

正しく識別できたなら10点

ダミヤンの個体識別

1. ・ダミヤンの識別因子

: 体重, 光, 音, マークの各因子 (詳細は別途)

2. 数種類のバリエーションを設ける.

3. 識別とポイントについて

どの識別因子 (体重, 光, 音, マーク) で識別しても識別した時点で, ダミヤン一体につき10ポイント

ダミヤンの個体識別

- ヘリテレカメラのみにより、個体識別を行ってはいならない。
マークを利用する場合は、ロボットに搭載カメラにより行わなければならない
- 個体識別を行った結果は、該当レスキューダミーを搬送完了もしくは競技終了のいずれか早い方より前に、**個体識別結果報告用紙**を副審に提出する
- 個体識別結果報告用紙を副審に提出後、記載内容を**修正することはできない**

募集要項から追加項目 コントロールルーム間通信

チームメンバー

- キャプテン(1名)
- スピーカー(兼務可)
- オペレータ(兼務可)
- ヘルパー(兼務可)
- レスコンボード管理(1名)
- コントロールルーム間通信(兼務可)

募集要項あとに追加

コントロールルーム間通信の役目

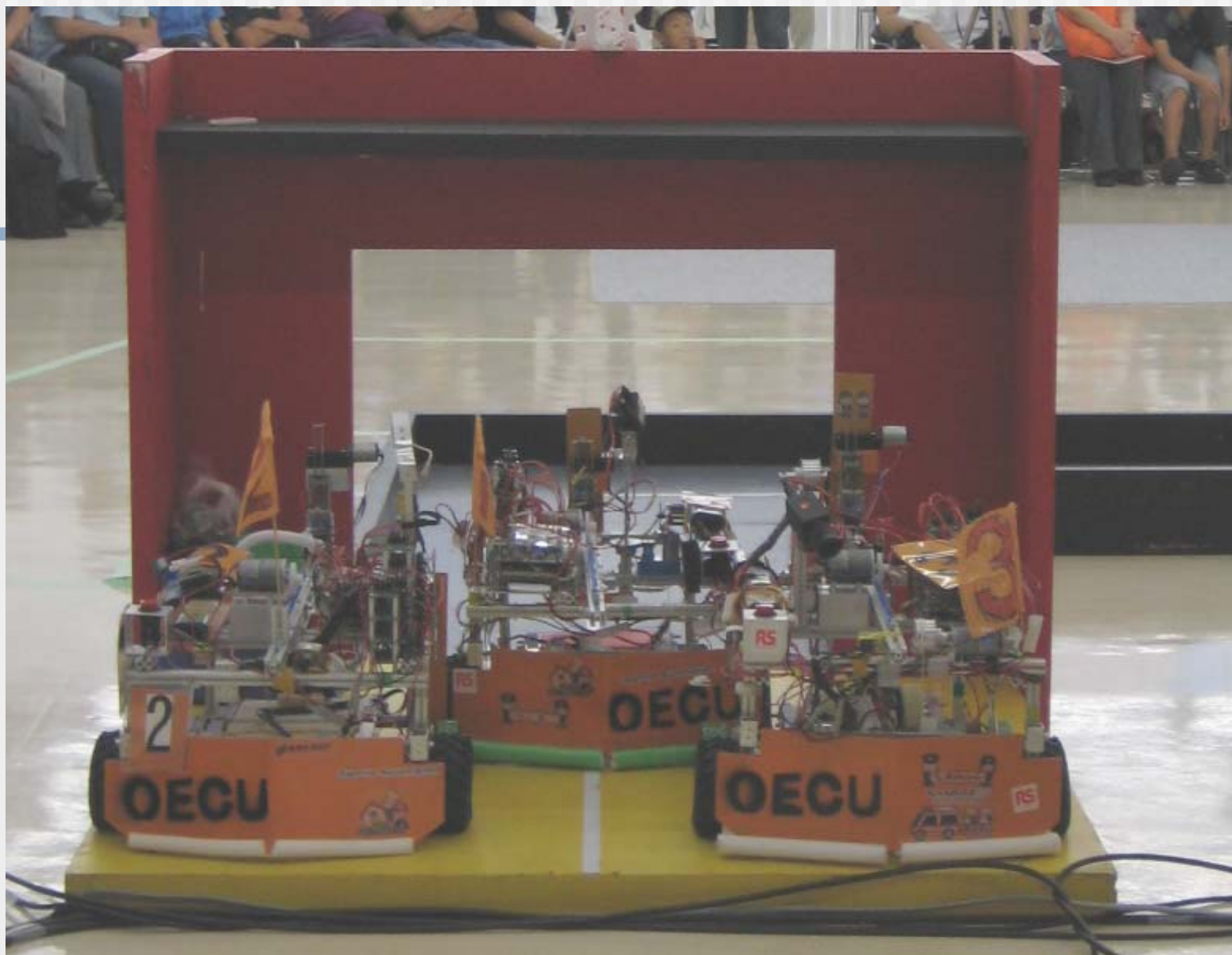
コントロールルーム間通信とは
相手チームと連絡を取り合い、
レスキュー活動が円滑に行われるようにする。

【予定】

コントロールルームに専用パソコンを設置
チャットソフト、WEBカメラ、骨伝導マイクを予定

ロボットのサイズ制限追加

- レスキュー活動開始時においてロボットベース
(1,200mm × 1,200mm) 内に、当該レスキュー活動で使用する交換部品等を含み、すべてのロボットを配置しなければならない<中略>レスキュー活動開始の宣言時に、ロボットを持ち上げるなど、ロボットベースおよびロボットベース内に配置したロボットに触れてはいけない。



第9回レスキューロボットコンテスト
実行委員会

競技規定の改訂

3回の改訂版公開を予定

1. 書類審査時期
2. 中間審査会前
3. 競技会前

第9回レスキューロボットコンテスト 競技のポイント

技術を学び 人と語らい 災害に
強い世の中をつくる

終了

第9回レスキューロボットコンテスト 特殊ガレキについて

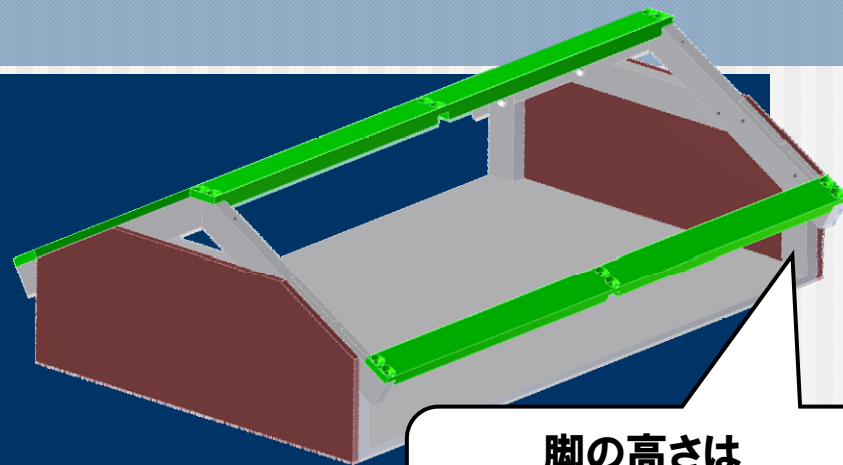


レスキューロボット実行委員会

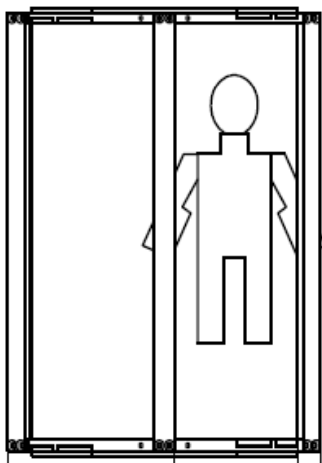
第9回レスキューロボットコンテスト
実行委員会

家ガレキ

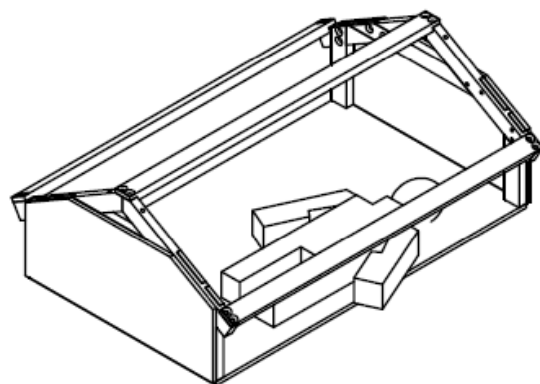
- ・倒壊した家屋を模擬
- ・第8回の屋根ガレキに
床(スポンジ付き)、壁(透明)、
梁を追加 屋根はない
- ・(ダミヤンの配置)頭からのアプローチの制限



脚の高さは
この図より高くなります
(規定の別添を参照)



上から見た図



ダミヤンの大きさと比較
(配置ではない)

新しい
アイデアを！

第9回レスキューロボットコンテスト 特殊ガレキについて

技術を学び 人と語らい 災害に
強い世の中をつくる

終了